

カルメル

霊性センターニュース



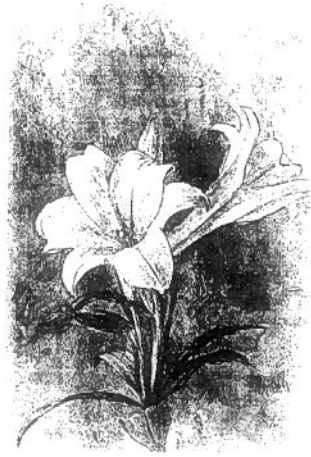
2015年4月

308号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

心の泉





第二卷

第九章 すべての慰めの喪失

7 誘惑の法則

神の恵みを奪われ、熱心さが冷えるのを、一時も感じなかったほどの敬虔な人、信仰の人を、私はまだ見たことがない。遅かれ早かれ、誘惑の時が一時もなかったほどの聖徳をもち、神と一致し、神に照らされた人は、一人としていなかった。実に、神への愛のために何事かの患難に鍛えられなかった人は、尊い観想にふさわしい人ではない。むしろ誘惑は、後に神がくださる慰めの前兆であることが多い。天の慰めは、誘惑を受けた人々だけに約束されたものだからである。「勝利者に生命の木の実を食べさせよう」(黙示録 2・7)と主は言われる。

神の慰めが与えられるのは、患難を耐え忍ぶ力を強めるためである。その後に誘惑が来るのは、善業を誇らないためである。悪魔は眠らない、邪欲も死なない。だから、戦いのために備えを怠るな、右にも左にも、休みを知らぬ敵がいるからである。

聖テレジア生誕 500 年を祝って

日々神と親しく生きる - 4月 -

ご復活おめでとございます。

このページがくられるのはご復活より少し前かもしれません・・・
聖テレジア生誕500年を祝う年に、聖女の誕生日（3月28日）を迎えあらためて一人の人の生き方について考えさせられます。「霊的な人々の母」テレサの「一人の人の救いのために千の命も惜しまない」熱意と祈り。でもそれは自分が何かできるからではなく、死と復活を通しておん父がおん子に与えられたあがないの恵みへのテレサの深い確信と希望なのです。

永遠のおん父よ、

あなたのために

千の命もよろこんで犠牲にする者の祈りを

なぜお聞き入れにならないのですか。

私には聞いていただく資格はありません。

ただ、おん子のおん血と功德のゆえに

お聞き入れください。

～テレサ～

私はあなたのもの

あなたのためにわたしは生まれました

主よ あなたはわたしに何をお望みですか

～ テ レ サ ～



復活されたキリストに出会う

マリア・マグダレナ

私たちは「父と子と聖霊のみ名によって」洗礼を受け、「三位一体の神の命」に生かされるものとなりました。この命はパン種のように中へ入り浸透し、中でどんどん広がっていきます。罪などによって障害物を置かない限り、わたしたちを変え、神との親しさを深め、ついには神との一致にいたることができるようにします。洗礼の恵みは、このような可能性を秘めています。成長さえするならば、「神との一致」にいたりつくことができるのです。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す (18)

くのり
九里 彰

(インタビューの続き)

それから私は娘に、十字架上のキリストを見つめなければならないと言いました。キリストは「彼らを赦します」とは言いませんでした。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と言ったのです。私と娘は、今度は御父に向かい、こう言いました。「父よ、ご覧の通り、私たちはか弱い女です。クメール・ルージュを赦すことができませんが、彼らをあなたのみ手にゆだねます」。こうして私たちは、自分の弱さと私たちの迫害者たちを、御父のみ手に捧げました。なぜなら、人間性に対するすべての犯罪は、イエス・キリストに対する犯罪であると、私たちは考えるからです。私にとって、赦しは神の恵みであり、私自身の力を越えた恵みです。それゆえ、私は、他者を赦す前に、神の赦しを受け入れねばならないのです。赦しは、受け入れねばならない恵みで、私がだれにでも分け与えることのできる私の善(所有物)の一つではないのです。まず第一に私たちの神から、それを受け取る必要があるのです。

質問: あなたはヨーロッパでカトリックの信仰を信ずるようになりましたが、ヨーロッパはあなたのアイデンティティとなったキリスト教を捨てつつあります。あなたは、このヨーロッパや世俗化したフランスの前で、どのような証しをなさるのですか。

クレール・リ: 私は、フランスがキリスト教信仰を捨てつつあるとは思いません。フランスにもはやないのは、「社会学的な宗教」であり、それによれば、私が教会に行くのは、すべての人が行くからです。フランス人は、イエス・キリストに対する同意としての信仰を生きつつあります。この行動が、大衆の宗教へと向かいながらも、社会学的な宗教から私たちを離れさせているのです。キリストは、「地の塩」となるよう、私たちを招かれています。ある人が料理をしている時に塩を入れるのは、味をつけるために塩を入れるのです。塩を入れ過ぎれば、もはや食べることはできません。いずれにせよ、キリスト者は塩なのです。彼らは社会に味をもたらさねばなりません。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (90)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

心地よい殴打 (Palos dulces)

草のカンゾウ (paloduz) ではなく、アビラにいた十字架のヨハネが食らった別の殴打 (palos) について述べます*。

いつも人間の弱さは存在しました。恐らく、判断力を失っていたと思われる一人の、神に身を捧げた修道女がいました。彼女は、その町の騎士から言い寄られ、プレゼントを贈られ、絶えず訪問されていました。それは、修道院の中だけでなく、町中で公然の醜聞となっていました。

この修道女が、十字架のヨハネ神父に告解するようになり、生活を変え始めました。最初の対処の一つは、まさにかのしつこい騎士との関係を断つことでした。激昂した、横柄なこの騎士は、彼女にこのような変化を引き起こしたと思われるヨハネ神父に対し、復讐を叫びました。夜になったので、闇にまぎれ、ヨハネ神父がエンカルナシオン修道院から出て来た時、神父に襲いかかり、容赦なく棒で殴り、地面に放置しました。十字架のヨハネは、彼をよく知っていました。その時は、何も言いませんでしたし、それを暴露しようともしませんでした。棒による殴打だけが残りました。何年も後で、それについて語りながら、ヨハネ神父は、こう言いました。「神の愛のためにあのような殴打を受けるほどの慰めは、いまだかつてなかった」と。

*スペイン語のダジャレ。植物名の“paloduz”(カンゾウ)と”palos dulces”(心地よい殴打)とをかけている。



復活の主日(B)

みことばのひびき

(ヨハ20:1~9)

キリストにおける親愛なる兄弟姉妹の皆さま、ご復活おめでとうございます。きょう喜びましょう！きょうだけではなく、毎日、一生涯、喜びましょう。イエス・キリストは死に、今日永遠に生きているからです。四旬節の砂漠と受難の悲しい日々を通して旅をしてきた私たちもまた、今日勝利の叫びをあげます：「キリストは復活された！本当に復活された」。ご復活が真実であると知ること以上に、また私たちもイエス・キリストといっしょに復活するのを知ること以上に望むことはあるでしょうか？

私たちはキリスト教徒です。それは私たちがキリストといっしょに復活したことを意味しています。洗礼を通してキリストの聖なる塗油に与ることを意味しています。たしかに私たちはときどき苦しみます。いつかわたしたちは皆死にます。しかし、きょう私たちは死が終わりではないことを知っています。たしかに私たちは弱く罪を犯しますが、きょう私たちは神が憐れみ深いことを知っています。神の憐れみによって、私たちは天国でキリストと共に永久に生きることを知っています。きょうイエス・キリストは生きているからです。このことは私たちがいつでも、人生の中での苦しみや落胆のときでも、世の中の不正と戦っているときでも、自分自身の罪深さに気づくときでも、微笑ませてくれます。

復活の喜びは、イエス・キリストが生きているという美しい真実を皆に走って行って話したい気持ちにさせます。本日の福音の中でも、私たちは皆が走っていることに気づきます。聖マリア・マグダレナは墓のところにきて石が転がされているのを見ると、走って行って聖ペトロと聖ヨハネに話します。するとペトロとヨハネは走り始めます。彼らは墓まで走りました。ヨハネは「より速く走り」、墓のところに先に着きました。彼らはまだ起こったことを完全には理解していませんでしたが、本当に興奮していました。本日の福音で最も重要なのは聖ヨハネが墓をのぞいたときです。「彼は見て、信じた」と福音は告げています。こは重要なことです。何故なら、空の墓は復活の「事実」だからです。これは使徒たちが「見た」ことです。彼らは「信じました」、イエスの墓が空であることを「見た」からです。

しかし私たちはどうでしょうか？ なぜ私たちは信じるのでしょうか？ 私たちは空の墓を「見た」のではありません。使徒たちが見たことを私たちに語ったので信じるのです。彼らの証言は何世紀にもわたって聖カトリック教会に伝えられました。イエスの復活は彼らの生き方を全く変えたということを知っているから彼らの言葉を信じます。イエスが十字架にかけられた後、使徒たちは死ぬほどおびえました。彼らはエルサレムの高間の隠れ家に入りました。しかしそのとき、イエスが彼らに現われました。その後彼らは恐れなくなりました。イエスが死者の中から復活したのを見ると、彼らは死ぬことを恐れなくなりました。イエスの12人の使徒たちは全員、イエスと彼の復活の証人となるため非常に苦しみました。しかし彼らはイエスのために苦しむことは価値があるとみなされることを喜びました。彼らは喜んでいました。何故なら彼らはイエス・キリストは生きていることを知ったからです。

イエスは死者の中から復活したことによって全てのものを新たにします。ですから、私たち皆にとってこのイースターを新しい日、新しい始まりにしましょう。

皆さまと、ご家族にご復活の喜びを申し上げます。イエスの復活を信じる皆さまが祝福されますように！

(Sr. Paulina)

「イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた」(ヨハネ 20, 19)。

イエスが来て、真ん中に立ち、言われた。この三つの動詞の行為は、すべてイエスの発意による行為、自発的な、意志的、積極的な行為を表しています。それは、弟子たちの期待、希望的観測が生み出したものではなく、弟子たちの想像力を遥かに超えたイエスの主導権をとった創造的な行動なのです。むしろ、弟子たちは、全く逆のことを予測し、恐れていたのです。イエスは、十字架の上で死に、墓に葬られ、その遺体さえも取り去られた、どこに置かれているかもわからない。弟子たちが陥っていた状況は、イエスが自分たちから根こそぎ取り去られた、この空虚感、喪失感ではなかったでしょうか。弟子たちは、戸を閉めて、外界との接触を遮断して、この虚しさの中にうずくまっていたのです。これに輪をかけるのが、恐れ、「弟子たちはユダヤ人を恐れ」、ユダヤ人が、自分たちの生存を脅かし、生命さえも危機にさらすかもしれない、この予測から来る恐れです。このような将来への展望を開くことができない状況、これに追い打ちかけるものは、イエスを裏切ったという罪に慄く良心の呵責です。イエスを裏切る、それは、イエスが語られた神の愛を裏切ることであり、この行為の邪悪さは、消えることのないものとして額に刻印されている、そのような自分を意識することです。創世記のカインが、兄弟アベルを殺害した後に、神から言われています。「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中から私に向って叫んでいる。今、お前はのろわれる者となった。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる」(創世記 4, 10-11)。この神の言葉を聞いた時のカインの心情と共通するものが弟子たちにもあったのでしょうか。

その弟子たちに、イエスは、ご自分の発意で出会いにお出でになり、上からの威圧的な命令口調ではなく、真ん中に立ち、つまり、弟子たちがいるのと同じ平面に立ち、そして、誰から強要されるのではなく、自ら進んで言葉を発されるのです。「あなたがたに平和があるように」。弟子たちは、自分たちがイエスに対して取った行動のゆえに、不安であり、将来への希望が描かれず、閉塞感の中に生きている、それは、いつしか、自分自身に対する、また、自分のまわりに対する怒りに変わってゆくものですが。その弟子たち、人間たちに、復活者は、平和を宣言し、現実的にも平和を注ぐ、与える。イエスの死は、人間たちの上に、罪の赦し、真実の平和を注ぐためでした。ルカ 渡辺幹夫

復活節第三主日 (ルカ 24:35-48)

復活節第三主日の福音では、主のご復活のあとも、一室に閉じこもり恐れ慄いる弟子たちの前に、初めて姿を現わされたイエスに出会うことができます。ルカは、先生の受難の悲しみのうちにエマオに向かった二人の弟子が、その道でイエスに出会い、喜びのあまり大急ぎでエルサレムに戻ってその様子を詳しく報告しているときに、イエスが弟子たちの真ん中に立ち、“あなたがたに平和があるように”と仰せになったと述べています。

ご復活のイエスが弟子たちの前に姿を現されるときはいつも“あなたがたに平和があるように”という挨拶を贈られています。これはそのときの弟子たちに最もふさわしい挨拶でした。弟子たちは最愛の先生の死を目撃し、自分たちの命すら危いと感じて恐れ慄いていたのです。ですから平和はそのときの弟子たちが何にもまして必要としているものでした。イエスはこの平和の挨拶をもう一つの贈り物である“赦し”につなげてくださいます。今日の福音の最後に「また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に述べ伝えられる」と述べられているとおります。

弟子たちはイエスご自身が仰せになった平和の挨拶を聞いたにもかかわらず、恐れおののきイエスと認めることが出来ず、亡霊を見ているのだと思いました。そこでイエスはご自分の復活された体をしつかりと見せ、手で触れさせてイエスの復活体を経験させてくださいます。目の前に立っておられるお方には肉と骨があり、十字架に打ちつけられたときの釘の跡もしっかり持っておられるのです。こうしているうちに、弟子たちは先生であるイエスの苦しみと死の辛い思いから離れることは出来ないものの、彼らの心の中には平和が根つき始め、それまでの恐れや慄きは次第に喜びと驚きに変わっていきました。

さらに、イエスはご自身であることを弟子たちに確認させ、ご自分の復活された体を証しするために、弟子たちと食事をなさいます。以前、弟子たちは先生であるイエスと食事をしながらたくさんのごことを教えていただきました。食事を共になさるイエスは、弟子たちにとって一番慣れ親しんだお姿なのです。イエスと弟子たちとの食事はルカ福音書の特徴付けている一つの要素です。ご復活の後、弟子たちと食事をなさるイエスは、イエスが共にしてくださった様々の食事を思い起こさせます。中でも一番重要なのは最後の晩餐です。

ルカ福音書の最後の晩餐とご復活後のイエスと弟子たちとの食事は、わたしたちに聖体の秘儀、聖体に秘められている尊さ、意味深さを明らかにします。弟子たちと食事をなさりながら、イエスは聖書がイエスについて述べていることの意味深さを、その重要性を包むことなくはっきり教えてくださいます。ですからわたしたちが集うミサ聖祭は、みことばと聖体の秘儀を通してイエスと出会うことです。イエスが“聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、”これらの事柄の証人となることを委任されたように、わたしたちには主の聖体を崇め、尊び、賛美し、主との親しい交わりの糧とすることを委任なさいました。弟子たちのように、イエスの十字架の贖いによって贈られた罪の赦しというこの上ない喜びの知らせを告げ知らせるために、わたしたちをみんなの中に派遣なさるのです。

(Sr. Paulina)

「わたしは良い羊飼いである」(ヨハネ 10, 11. 13)。

「わたしはある。わたしはあるという者だ」(出エジプト 3, 14)。閉塞され、将来への希望の展望を閉ざされたイスラエルにとって未来を切り開くのは、モーセが燃える柴の間から聞いた、この神の名、神の生命の本質を告げる、呼び名でした。隷属の地、エジプトから乳と蜂蜜の流れる国に向けての解放の旅が始められたのです。その旅の先頭に立って導いて行くのは、燃える柴の間から「わたしは必ずあなたと共にいる」と約束した神なる主に他なりません。そして、その神の地上に落とした影のようなモーセの存在です。

今日の福音、喜びの知らせでも、イエスは、「わたしは良い羊飼いである」と、宣言されています。このお言葉は、あの「わたしはあるという者だ」とのお言葉がモーセにイスラエルを率いた四十年間の砂漠の中の旅を始める勇氣と献身を吹き込んだように、わたしたちにも旅立ち、イエスに従って行く旅にわたしたちを誘い、決断させるものです。旅は、モーセとイスラエルの民にとっては、砂漠、いろいろな困難、食料、水のない、誘惑に満ちた砂漠の四十年でした。イエスに導かれる旅も、砂漠を、いろいろな形を取る砂漠、ある時は、天災、ある時は、戦争、また別の時は、飢饉、飢え、病気など、わたしたちが望んでもいない不幸、不運と言われているものの只中を、通過して行くでしょう。イエスは、ご自分が先頭に立ってゆく旅に、このようなことが襲ってはこないとは確約なさいません。しかし、きっぱりと断言なさることは、これらのものすべてにわたしは勝った、また、これからも勝ち続けて行く、もはや、わたし一人のみがではなく、あなたたちと共に、わたしの声を聞き分け、従って来るあなたたちと共に、どのような閉塞状態も、どのような強力な妨害も、誘惑も、すべてを越えて行く。これを確証するのが、十字架の上で自分の命を捨てて死に、そして、三日の後、復活し、今も、生きているイエス、主なのです。「わたしは羊のために命を捨てる」(ヨハネ 10, 15. 参照ヨハネ 10, 11. 18)。この「捨てる」は、自分に必要がないから脱ぎ捨てるのではなく、むしろ、大切なもの、なくてはならないもの、自分一人にとってのみではなく、すべての羊に、すべての人々に、なくてはならないもの。これを、すべての人に着せるためです。その着せるものは、イエスが享受している御父との親しさと同じもの、すべての人が御父との愛の代わりに生きることなのです。

ルカ渡辺幹夫

家人が寝静まり独りとなって、昼間とはまるで違う無限の時間の中に沈みゆくような夜更け、ジャズの低いボーカルか或いはグレゴリアンチャントのCDを小さく流して、やがては80歳にもなろうというおばあさんが「雅歌」と「霊の賛歌」と「愛の生ける炎」を抱えているというのは、絵柄としてはいささか恐怖の感もあるのですが、私としてはおばあさんになる前からずっとこれ等に惚れ込んでいるので、弁解のしようもありません。

ソロモンの歌の中の歌、最上の歌といわれる「雅歌」を愛唱する人は世界中にとても多いと思います。文学作品にもよく引用され、エピソードに掲げられるのを目にしたこともあります。愛すること、愛されること、結ばれることを、花むこと花よめの婚姻のかたちで歌い上げる高らかな愛の賛歌です。繊細な感受性、甘美な情緒、飛翔する憧憬、そして飢渴、煩悶を含んで余すところのない交感であり交歓です。人間と人間の関係であるのですが、同時に何よりも何よりも神さまと人間の関係であることが、私たちにたとえようのないよろこびをもたらすのです。

十字架の聖ヨハネをはじめとする聖人方、神秘家の方々が、ここから豊かなインスピレーションを汲みとられ、深く玩味されたことは著作として後世に残り、いつの時代も読む者を魅了してやみません。

なかでも十字架の聖ヨハネの「霊の賛歌」と「愛の生ける炎」は、最上の歌、最上のよろこびというにふさわしく、私にとっては魂の糧であるのです。

手もとにある両冊は、本来は真白の美しい表紙の本であるのに、すっかり茶色く変色して手擦れで傷んでしまい、見るも無残なさまですが、長年にわたって私を支え導き育ててくれた証であるのだと、この損傷をありがたく思っています。

尤も若い頃には、今夜のようにBGM付のムードに物を言わずような状況で頁を開いたりはなく、愛の病み患いはもっともっと切実でした。

今、老齢となり、進みゆく力も瞳の輝きも何もかもが温順に薄れ、天の花むことの世界は、境もなく果てもなく広がり続いて茫々の感じですが、それは私を支えます。私はその中で生き動き存在するのです。

頂戴したいのちの燃料もきつと残りはわずかでしょうが、こうして与えられる一日一日、一時一時を確かに生きるということが、天の花むこと私の最上の歌であるはずです。

昔、恋愛についての文章を何かで読み、泣いてしまうほど感じ入ったことを

思い出します。

恋愛は「する」ものではなく「落ちる」ものであり、「襲われる」ものであること。 その暴力に屈した度合いに応じて恋愛を識るのだ。

愛する苦しみも、愛する喜びも、自分の制御能力に合った分量を与えられるのなら、何と安泰なことか。 人はなぜ恋に「落ちる」のか、それはわからない。

そのような趣旨でした。

考えてみました。

実は神さまと人間の関係もそうなのではないでしょうか。 神さまとの出会いは私がみつけて得たのではなく、神さまにみつけれられてしまったのであり、神さまの方からあわれみをもって大急ぎでかけつけてくださったのです。

出会いとは私が予想したり拵えたりはできないもので、私は神さまのあわれみのただ中にまさに「襲われ」アーメンといいつつ「落ちた」のです。

ヨハネの第一の手紙にあるように、わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛してくださって、ひとり子をおつかわしになったのですから。

そのお方は、わたしたちのためにいのちを捨ててくださったのですから。この出来事を決して忘れないようにいつもいつも「心に置いて印のようにし腕に置いて印のように」し続けたいと心から願い念じています。

「雅歌」「霊の賛歌」「愛の生ける炎」の世界は、キリストにあっての一つの側面、機能というのかもしれませんが、私のすべてをにかけていのちを失って飛び込むことのできる歌の中の歌、最上の歌であり、伏して賜る恵みの中の恵みです。

深更、若い日と同じくやはり私の魂は叫びます。

「わが愛する者の声が聞こえる 見よ彼は山をとび 丘をおどり
越えてくる」(雅歌2-8)

すでに来られ、、今在り、やがて来られる方 —— 来てください。

いのちの言葉 4月

「すべての人に対してすべてのものになりました。」

(コリントの信徒への手紙一 9・22)

聖パウロは、コリントの信徒への最初の手紙の中で、なぜ彼が謙遜に自分の権利を放棄し、自分の仕事に対する報酬を受け取らないかについて説明しています。自分の使徒としての権限や権利を利用しようと思えば利用できるのですが、あえて「すべての人の奴隷」となる道を選んだのです。

自分をあらゆるレベルの人と同じレベルに置き、自分もその人たちの一人になりました。それは彼らの間に福音の新鮮さをもたらすためでした。パウロは、「自分もその人たちのようになった」と、五回も繰り返し言っています。たとえば、自分はすでにモーセの律法の支配下にはいないと分かっているにもかかわらず、ユダヤ人に対しては、モーセの律法に支配されている人のようになり、それはユダヤ人を愛するためでした。また、モーセの律法を持たないユダヤ人以外の人に対しては、自分も律法を持たない人のようになり、それは「イエス・キリスト」という、たいへん要求度の高い律法でした。一方、「弱い」と呼ばれる人たちがいました。それは、偶像に供えられた肉を食べてもよいかどうかと迷っているキリスト者たちのことだったと思われ、そのような人たちを前に、パウロは、本当は自分は「強く」、偶像に供えられた肉に関してまったく自由に感じていたにもかかわらず、あえて「弱い」者となりました。

そして、自分がそのようにするのは、なんとかして何人かでも「救うため」だと言っています。むしろ、彼の愛に誰もが応えるわけではないことも分かっています。それでもパウロは、すべての人を愛し、「(皆に)仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を犠牲のために来た」(マタイ20・28)、とおっしゃった主の模範に倣って、すべての人に仕えようとします。

「すべての人に対してすべてのものになりました。」

キアラ・ルービックは、福音的な愛について語りながら、このみ言葉を「相手と自分を一つにする」という言葉で表現し、その大切さを次のように説明しています。「私たちは、泣く者と共に泣き、笑う者と共に笑わなければなりません。そうすれば十字架は大勢の人で共に担われ、喜びはいっそう大きくなって、多くの人の心に伝わり、(…)私たちはイエスを愛するために、イエスと同じ愛をもって隣人と自分を一つにします。そうすると、私たちの内にある神の愛に触れた隣人が、今度は私たちと自分を一つにしたいと望むようになり、互いに助け合い、自分の理想や計画、愛情までも分かち合うようになるでしょう。(…)」¹

キアラは、日々の生活の中で「相手と自分を一つにする」のを妨げる事柄についても触れています。「時には、私たちの注意が足りなかったり、なんとしても自分の

¹ 『プリズム』愛の外交術より 1985 97頁

考えを伝えようとして先走ってしまったり、しなくてもよい忠告をしてしまったりすることがあります。また、どうせ自分の愛を分かってもらえないだろうと決めつけたり、種々の偏見にとらわれて、相手と一つになろうとしないことがあります。時には、相手を自分の思いどおりにしたいという気持ちが、妨げとなることもあります。」そこで、「真に相手と一つになれるよう、自分の思いを脇に置いたり、心を空っぽにする必要があります。」²

これらのことは、今月のみ言葉を生きていく上で、大きな助けとなるでしょう。

「すべての人に対してすべてのものになりました。」

この福音は、自分の確信を脇に置いて、相手がすることを何でも無条件に受け入れるように求めている、と考えたり、自分からはあえて積極的な提言をしないように勧めている、などと誤解をしてはなりません。真に相手を愛し、その人との間に誠意ある関係が生まれたならば、私たちは、たとえそれが相手の痛みになるとしても、自分の考えをはっきりと伝えることができますし、またそうすべきです。ただ、そのためにはいっそう深い愛を相手に示すことが求められます。相手と自分を一つにすることは、弱さを表わすものではなく、本当に自由な心で人に仕えようとする姿勢を示すものです。

また、なぜ相手と自分を一つにするのかを、はっきり認識することが大切でしょう。パウロが言うように、それは「なんとかして、何人かでも救うため」です。

政治や商業の分野でも、人々に関心を示し、その要望や必要に応えるため、意に耳を傾けようとする姿勢が見られますが、そこにはしばしば自分の利をかえりみる心が働いています。一方、キアラが言う「神聖な外交術」における独特ですばらしい点は、「ただ他の人の善のみを願って動き、利己主義の影がみじんもない」³ということです。

「相手と自分を一つにすること」、それは相手が愛において成長できるように助けるためであり、またその生き方を通して、私たちは普遍的な兄弟愛の実現に向けて協力することができるでしょう。普遍的な兄弟愛は、神様の人類に対する夢であり、またそのために、イエスは命を献げられたのです。

ファビオ・チャルディ神父

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 4月12日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

4月25日(土) 13:30~ 二子玉川フォコラーレ・センター

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 4月12日(日) 14:00~ 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎 4月26日(日) 14:00~ カトリック浦上教会 要理教室

² *La vita, un viaggio*, Roma 1994 63頁

³ 『プリズム』愛の外交術より 1985 99頁

連絡先：フォコラーレ

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（186）



地獄の福音

地獄はあるのでしょうか。天国と地獄の概念は、善と悪の概念と密接に結びついています。私たちが自由に善を行なうことができる時には、自由に悪を行なうこともできるのです。神の愛に対し「はい」と答えることができる時には、「いいえ」という可能性も存在するのです。したがって、天国がある時には、地獄もなければならぬのです。

これらすべての区別は、神が私たちから自由に愛されることを望まれているという神秘を守るためになされているのです。この意味では、奇妙に聞こえるかもしれませんが、地獄の観念は、良い知らせ（福音）なのです。人間は、何も選択できず、生きている間にどんなことをしようと、最後には神の国にいるというロボットでも自動人形でもないのです。そうです。神は、私たちをとて愛しておられるので、私たちに愛し返されることを望んでおられるのです。愛は強制されません。それは自由に与えられねばなりません。地獄は、神に対する最終的な「いいえ」による苦い実りなのです。（1215）

すべての人に与えられている経験

ある人々は言います。「私は完全に満たされた時を一度も体験したことがない。…私は普通の人間すぎない、神秘家ではない」と。たとえある人々が神の現存の独自の体験をし、それゆえ、神の現存をこの世に伝えてゆく独自の使命を持っているとしても、私たちは皆、一学識があろうと無学であろうと、金持ちであろうと貧乏であろうと、目立とうと隠れていようと一満たされた時に神を見る恵みを受け取ることができるのです。この神秘的な体験は、わずかな例外的な人々のためのものではありません。神は、その贈り物を、ある仕方と、また別の仕方と、すべての神の子供たちに与えたいのです。

けれども、そのためには、私たちがそれを望まなければなりません。私たちは注意深く、内的に目を覚ましていなければなりません。ある人々にとって、満たされた時の体験は、聖パウロに起きたように、劇的な仕方と起こるからです。彼は、ダマスカスへ行く途上、地に打ち倒されたのでした（使9・3-4）。しかし、ある人々にとっては、それは、さやぐ音か私たちの背中に触れる優しいそよ風のようにやって来ます（列上 19・13）。神は私たちすべてを愛し、この時を私たち皆がもっとも個人的な仕方と知るように望んでおられるのです。

（1221）

九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

新「世界平和の祈り」への呼びかけ

跣足カルメル修道会総長 ザベリオ・カンニストラ神父

2015年3月9日



親愛なる兄弟・姉妹の皆さま、

3月28日はイエスの聖テレジア生誕500年記念の誕生日です。この日を数年前から、全世界の跣足カルメル会男子修道院、女子修道院、在世会が熱心に待ちわび、周到に準備してまいりましたが、その日が、もうすぐ近くに来ております。

2014年10月14日、アヴィラのラ・サンタで、私は生誕500周年記念行事の公式開始前晩ミサの説教の中で、その重要な日に聖母に贈り物を捧げようとしている私たち皆のことを思い浮かべました。そして、その最高の贈り物は疑いなく今もいつも、イエスの聖テレジア、彼女自身であろうとも申しました。

今年の3月26日に、間違いなく聖女の心を喜びで満たすものを捧げるために、私は聖女の息子・娘である皆さまを、祈りの時へとお招きしたいと思います。それは、特別な祈りの時であり、そのすべての意向は、世界平和のためであります。聖テレジア

は、当時、この世界を荒廃させていたあらゆる紛争と分裂を見て、「この世は炎に包まれているではありませんか」と叫びました。現在、私たちの世界も、炎に包まれています。私たちはしばしばこのことに十分気づいていません。またその火を消すために何かができると信じるに足る確信を欠いています。私たちは、時々、日常生活のどうでもよい事柄や、差し迫った問題に気をとられて、地平線を見、そこに社会の苦しみのしるしである、戦争・紛争・テロリズム・公の場での暴力や家庭内暴力・苦しみの叫び・表現の抑圧などを見出すために、目を上げることを忘れていたのです。

その日には、政治をつかさどる人々、その責任をゆだねられている人々に、それらの問題の解決を任せて、私たちはどこかに隠れてしまうことはできないでしょう。3月26日は、聖テレジアの声が私たちの心にこだまする日です。聖女と共に、今はまったく些細な事柄を神と議論する時でないことを確信しつつ、私たちの内にある「少しばかりのこと」をなそうと決心する日なのです。

私は喜びをもって、教皇フランシスコがこの提案を好意的に受け取られ、26日の日に世界平和の祈りを開始すると決定されたことを、皆さまにお知らせいたします。その時から、ほとんどテレジアが生まれた時と同じくしながら、世界平和というこの意向をもって、祈りに潜心されるよう、皆さまをお招きいたします。

世界に神との和解をもたらされた真の友であるキリストと一致しつつ、人々の間に和解の対話をうながす平和の賜物を御父に願い求めながら、天に目を上げましょう。主が私たちに教えられたように、赦されるために赦すこと。赦すために私たちの心を開きましょう。傷つけた人に赦しを乞い、イエスが約束された神の平和、この世の平和ではなく、私たちの心を喜びで満たし、すべての臆病から私たちを解放する平和を願い求めましょう。

教会の息子と娘たちである皆さま、教皇フランシスコがご自身の手で作られたこの世界平和の祈りの提案を心から実行しましょう。教皇聖ヨハネ・パウロ2世がアッシジで私たちに教えられた模範に従い、すべての信者をこの祈りに招きましょう。

イエスの聖テレジアの内に、兄弟姉妹の皆さまと一致しつつ

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2015年 4月 2日(木)夕食～ 5日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 10時～16時

〔聖人たちを支えた神のことば〕 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2015年

4/17 (金)、~~4/30 (木)~~ (中止)、5/15 (金)、5/28 (木)、6/19 (金)、
6/25 (木)、7/10 (金)、7/23 (木)、9/3 (木)、9/18 (金)、
10/30 (金)、11/5 (木)、11/20 (金) 12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

8月 1日 (土) 18時～	8月10日 (月) 朝	福田正範神父
8月12日 (水) 18時～	8月21日 (金) 朝	福田正範神父
10月13日 (火) 18時～	10月22日 (木) 朝	福田正範神父
12月27日 (日) 18時～	2016年1月5日 (火) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

4月24日 (金) 16時～26日 (日) 16時

11月13日(金) 16時～15日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

9月25日(金) 16時～27日(日) 16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

5月29日(金) 20時～31日(日) 16時 「わたしは神をみたい」

11月 6日(金) 20時～ 8日(日) 16時 「いのりの道」

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

*日時: 4月2日(木)夕食～5日(日)朝食後 10時まで

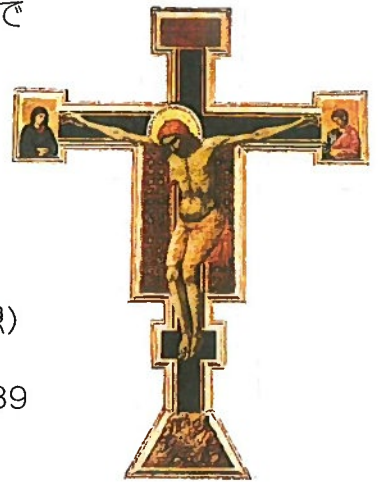
2日(木)は、午後3時より入室できます

*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



*****上野毛教会聖週間の典礼ご案内*****

4月2日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
4月3日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月4日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
4月5日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00

日帰り一日黙想会

「聖人たちを支えた神のことば」

時 間： 10時～16時
指 導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）
場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
会 費： ￥3500（昼食を含む）



“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章6章25）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

日 程：

2015年

4/17（金）、~~4/30（木）~~（中止）、5/15（金）、5/28（木）、6/19（金）、
6/25（木）、7/10（金）、7/23（木）、9/3（木）、9/18（金）、
10/30（金）、11/5（木）、11/20（金）12/3（木）、12/18（金）

2016年

1/15（金）、1/28（木）、2/12（金）、2/25（木）、3/11（金）

お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付けます

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



カルメル青年黙想会

アビラの聖テレジア



- 日時 : 4月24日(金) 16時 ~ 26日(日) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 4月17日(金) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話 : 03(5706)7355
FAX : 03(3704)1789
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会

2015年5月29日（金）20時～31日（日）16時

わたしは神をみたい



神の似姿に創られた

私たちを捜す神のまなざしに出会い

私たちを捜し続けられる 神を迎え入れるために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

- 指導：伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』
聖母文庫（黙想の家で購入できます、）筆記用具、パジャマ
- 参加費： ¥12000
- 場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

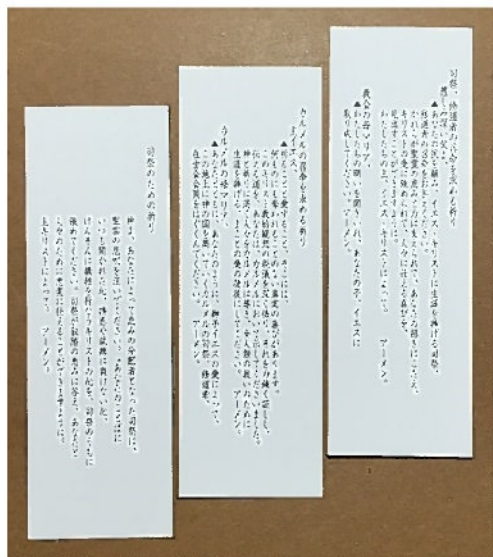
158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355

申し込み方法：FAX 03-3704-1789 または、ハガキにて。

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

イエスの聖テレジア生誕500周年記念

「祈りの葉」頒布のご案内



イエスの聖テレジア生誕500周年を記念して祈りの葉をカルメル在世会で作成しました。上記のデザイン6枚を1セットとして袋に入っています。

裏には「司祭、修道者の召命を求める祈り」「司祭のための祈り」が印刷されています。イースターのプレゼント、新受洗者へのお祝い、愛読書や祈りの本の葉としてご愛用いただければと思います。

お求めは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

1セット ¥200

「カルメル」
今日の靈性・春号
四旬節講話特集号



カルメル 2014 特集号

2015 春 No.356

「イエスの聖テレジアの
カリスマとその広がり」

神が慈しまれた道 (5)	愛を探しつつけて	西行と芭蕉の靈性 ——「御裳濯河歌合」の心の世界 (7)	歴代教皇の寸描 ——教皇の国際性 (1)	聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて ——夜と暁のはざままで (10)	風に吹かれて (3) ——不純のすずめ	修道生活の改革 (1) ——アビラの聖テレジアの理想	● 目次 ●	二人のテレジア ——アビラのテレサとリジューのテレトス	イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響	● 目次 ●
奥村 一郎	森 みさ	田畑 邦治	高橋 重幸	マリイ・エウジェヌ 編・訳 伊徒信子	原 造	九里 彰		テレジアと出会った十字架のヨハネ	渡辺 幹夫	
50	44	37	31	24	22	3		エディット・シユタインとの三位一体のエリザベト	伊徒 信子	
						9		エディット・シユタインとテレジア ——出合いと靈的絆	須沢 孝一	
						15			須沢 孝一	
						9			33	
						3			20	
						3			2	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年	5月23日(土)～24日(日)	主よ私たちにも祈りを教えてください	中川博道 神父
	9月5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道 神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道 神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道 神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)				
2015年	4月11日(土)	中川博道神父	9月12日(土)	渡辺幹夫神父
	5月9日(土)	渡辺幹夫神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	11月14日(土)	中川博道神父
	7月11日(土)	中川博道神父	12月12日(土)	渡辺幹夫神父
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年	4月15日(水)	聖テレジアと共に、復活したイエスを探して	中川博道 神父
	5月13日(水)	ファチマの聖母	松田浩一 神父
	6月17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫 神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道 神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一 神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫 神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一 神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道 神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫 神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道 神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一 神父

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	2月28日(土)～3月1日(日)	渡辺幹夫 神父
2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道 神父

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------

・ 聖テレザの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	9月30日(水)～10月1日(木)	伊従信子師
-------	-------------------	-------

【奉献生活の霊的セミナー】 (午後1時～午後2時)

2015年	5月3日(日)～5月6日(水)	中川博道神父
		松田浩一神父
		渡辺幹夫 神父

カルメル青年の集い (午後5時～午後4時)

2015年	4月28日(火)～4月29日(水)	主よ私はあなたのもの、	松田浩一神父
		私のすべきことは何ですか？	
	11月22日(日)～11月23日(月)		松田浩一神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午前4時)

2015年	10月14(火)～10月15日(水)	イエスのテレサ生誕500年閉会式	松田浩一神父
-------	--------------------	------------------	--------

奉献生活者の黙想 午後5時～午前9時
2015年 7月31日(金)～8月9日(日)
8月21日(金)～8月30日(日)
12月27日(日)～1月5日(火)

中川博道 神父
松田浩一 神父
松田浩一 神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月2日(木)～4月5日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(木)～12月25日(金) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



イエスの聖テレジア生誕 500 年記念 カルメルファミリー国際交流会とファティマ静修の旅 2015年8月9日 (日) ~8月18日 (火)

カルメル・ファミリーの霊的一員として、一般信徒の皆さんも参加できます。

☆ カルメルファミリー国際交流会 **スペイン・アヴィラにて開催**

- 8月9日 午前 日本出発
- 8月10日 午後7:00 アビラ市での開催式
- 8月11日~13日、 テレジア的カリスマの国際交流と 祈りのひと時
- 8月14日午前10:00 閉会式のミサ： 既足カルメル会総長カニストラ総長司式

☆ ファティマでの静修 **ファティマ大聖堂横のカルメル会黙想の家にて**

- 8月14日~8月17日 ファティマの聖母のご保護のうちに静修
- 8月18日 お昼ごろ: 帰国

☆参加をご希望の方は、下記の連絡先へご連絡下さい<申込期限:4月5日(日)まで>。

参加希望者は下記へ FAX・手紙・Eメールでお願いいたします。

<記入事項: 名前・年齢・所属教会・連絡先・イエスの聖テレジアとの霊的なつながり>

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院

担当 松田浩一神父: FAX 0774-32-7457 [✉teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

※ カルメル在世会会員の方は、ご所属の共同体会長へ ご連絡ください。

※ 尚、先月までのご案内におきまして、2015年 8月10日~8月14日となっておりますが、日程変更となりました。

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

6月19日(金)～20日(土)

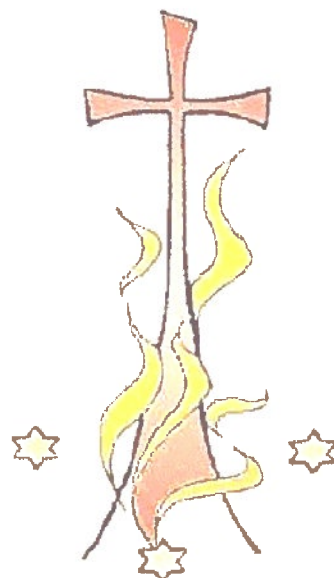
7月24日(金)～25日(土)

9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

靈性センター

北陸地区

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル靈性センター



〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 244 - 7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

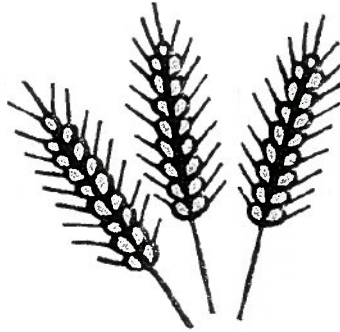
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター

真命山 霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

サダナ瞑想

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご紹介下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

- M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会
- N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N2 4/30 (木) -5/6 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/12 (金) -6/14 (日) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
- T1 7/20 (月) -7/26 (日) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K4 9/19 (土) -9/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N3 10/27 (火) -11/2 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
- T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

夏学期: 4/11, 4/18, 5/16, 5/23, 5/30, 6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/5, 9/12, 9/19

冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19,

2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」
2月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)、7月4日(土)10時～5日(日)14時(上石神井)、
11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。
[関西]9月26日(土)13時30分～27日(日)15時(宝塚市)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2月7日、3月14日、4月11日、5月16日、6月6日、7月11日、8月8日、9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

4月24日(金)20時20分～5月1日(金)8時40分
6月19日(金)20時20分～21日(日)8時30分
8月8日(土)20時20分～15日(土)8時30分
9月19日(土)20時20分～22日(火)8時30分
10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2,400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

●アガペ会

[関西]5月9日(土)13時30分～10日(日)15時、7月30日(木)17時45分～8月5日(水)15時。

・「アガペ会」
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
4月18日(土)、6月27日(土)、2016年1月24日(日)。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。
13時30分から。岐部ホール4階、404。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 04/05 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内 Kultour
ルハイム2階、80人限定)
- 4/10 信仰の道—人生の意義を問う
- 4/17 聖書の人間像—人間の現状と使命、
- 4/24 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/1 理性と神認識の道—世界内存在を通して
- 5/8 創造された世界—人間存在の根拠と自然
の意味
- 5/15 歴史と信仰—神との出会い
- 5/22 内なる神—その「似姿」としての人間
- 5/29 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/5 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/12 救い主の役割—人類の待望
- 6/19 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/26 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕え
る
- 7/3 イエスのたとえ話—神の働きを語る
- 7/4-5 ●黙想会(上石神井)
- 7/10 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/17 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/24 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/25 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内 Kultour
ルハイム2階、80人限定)
- 7/31 ○休み

夏季

- 08/07 イエスの受難—その史実と意図(上智大
学内 Kultour ハイム2階)
- 08/14 ○休み
- 08/21 イエスの死—その救済的意義(上智大
学内 Kultour ハイム2階)
- 08/22-30 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大
学内 Kultour ハイム2階)
- 08/28 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見た
イエス(上智大学内 Kultour ハイム2階)

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[教会]

- 04/05 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内 Kultour
ルハイム2階、80人限定)
- [人生の基礎づけ]
- 4/7 人間の尊厳—自律と自己超越
- 4/21 人生の目標—神の「似姿」としての真なる
人間
- 5/19 人間以外のものの意義—世界の使用と
聖化
- 6/2 創造・歴史・救い—イエスという中心
[倫理的行為]
- 6/16 行為の規範—人間らしさと神の呼びかけ
- 6/30 自己実現—責任と自由
- 7/4-5 ●黙想会(上石神井)
- 7/7 性格の形成—自己受容と善への憧れ
- 7/21 人間の弱さ—罪とゆるし
- 7/25 ■感謝のミサ(14時、上智大学内 Kultour
ルハイム2F、80人限定)
- 8/4 ○休み
- 08/18 有意義に生きる基盤—信仰と希望(上
智大学内 Kultour ハイム2F)
- 08/22-8/30 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大
学内 Kultour ハイム2F)
- [根本的態度]
- 09/01 唯一の掟—愛による完成
- 09/15 基本的な徳—判断力・勇気・節制

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03-3263-4584
クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



東京

4月25日(土) 「主は復活された！」
5月23日(土) 「聖霊 来てください」
午後2時 ～ 午後5時30分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

京都

4月11日(土) 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子

「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

三位一体のエリザベット：神の現存

4月11日(土) 14時～16時 河原町カトリック会館7階

「いのちの泉へ」 担当：中山真里

4月14日(火) 13時半～15時半 河原町カトリック会館3階

* 『いのちの道をゆく』 担当：伊従信子

* 祈り：カテドラル地下、都の聖母聖堂にて 3時～3時半

4月18日(土) 13時半～15時 京都NDV

「小さな泉」 13時半～15時 担当：中山 真里

京都お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : ndvmari@hotmail.com

捧げるということ

網を捨てて従う

2015年度 第回 召命黙想会

日時： 5月16日（土）15:00～
17日（日）15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
（JR京都駅から30分）

指導： 山内 十束 師（ご受難会）

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2015年5月10日（日）まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr.桂川

Tel: 077-579-2884 Fax: 077-579-3804

e-mail: karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師（ハガ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご
相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

* 詳細、補充情報はホームページをご覧ください。URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門A	4/12(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
リピーターの会	4/24(金)17:30- 4/27(月)15:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨセフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/9(土)9:30- 10(日)17:00 5/16(土)9:30- 5/17(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
入門B	5/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナII	5/27(水)17:30- 5/31(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
フォローアップ	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門C	7/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	若山美知子※
サダナI	7/17(金)17:30- 7/20(日)16:00	Fr植栗	カンディダ・マリア・ハウス (葉山町)イエズス孝女会	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナI (入門A, B, C) = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす

◆サダナII = Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される

◆フォローアップ = サダナIを終えた方

◆入門C = 入門Aまたは入門Bを終えた方



《一日静修へのおさそい》

テーマ 「不安な時代に希望を探して」

指導 中川 博道 師(カルメル修道会)

日時: 5月30日(土)10:00~16:00 受付 9:30~

場所: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
〒182-0034 調布市下石原 3-55-1

対象: 男女・年齢を問わずどなたでも参加可 先着80名

会費: 1,000円(昼食各自持参)

申込: 住所、氏名、電話番号を記入の上、FAX かメールで
同調布修道院 FAX/ 042-482-2163

E-mail/ cn dmokuso@yahoo.co.jp

問合せ: 同調布修道院 Tel/ 042-482-2012

受付時間 平日9:00~17:00

主催: コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

※京王線調布駅下車。中央口から徒歩20分。タクシー5分。

マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月9日（木）『靈魂の城』第六の住居・第九章

6月11日（木）、7月9日（木）、9月10日（木）

11月12日（木）、12月10日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

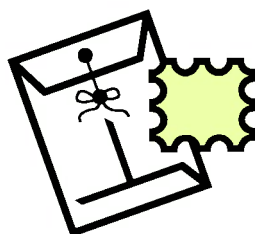


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

4月には新しい出発の月である。学校や会社、新入生や新入社員は、緊張と不安、期待と希望で心の中がいっぱいになっていることだろう。これは、幼稚園の小さな子供たちにとっても同じことである。ひよっとするとこの小さな子供たちの方がもっと大変かもしれない。というのも、今まではお母さんやお父さんと、お婆さんやお爺さんと、温かい家の中で生活していたのに、生まれて初めて大勢のお友達や先生たちと毎日出会い、一緒に生活しなくてはならないからである。右も左もわからず、お母さんと離れたくないので、必ず泣く子が出てくるようである。

これはある園長先生から聞いた話である。ある時、お母さんに送られてきた子が、お母さんが帰ってしまった後、心細くなったのだろう。一人泣いていると、お友達が近づいて行って、こう言って慰めていたそうである。「お母さんがいなくなってさびしいの。でも、大丈夫だよ。ここにはいつもマリアさまがいるから。マリアさまはみんなのお母さんなんだよ。」

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

[4月28日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171